

「らしさ」プロジェクト始めます

— 3つのスキマを埋めて あなた「らしさ」を。 —

北九州市では、「女性にコンフォートなまちづくり」の実現に向け、令和7年度に「Woman's リアル VOICE プロジェクト」を実施し、女性の暮らしや健康に関するリアルな声を丁寧に収集しました。その中で見えてきたのは、**3つの「スキマ」**でした。

(実際の声)

- ・制度があっても使っている人を見たことがない → 制度と現実のスキマ
- ・家庭と職場以外のつながりがほしい → あなたと社会のスキマ
- ・身体の不調について、どこに相談したら良いかわからない → 制度と制度のスキマ

こうしたスキマを埋めることで、人が制度に合わせるのではなく、制度や支援が人に寄り添い、その結果として、「あなたらしさ」が実現される社会を目指します。

<3つのスキマを埋める具体策>

制度と現実のスキマを埋めて、女性が働きやすい環境をつくる

- ① WomanWill 企業ネットワークの立ち上げ
(『BOSS カフェ』～経営トップと社員の本音トーク～)

あなたと社会のスキマを埋めて、日常の中でつながりの場所を広げていく

- ② Woman's リアル VOICE テラス
- ③ オンラインコミュニティの構築(詳細は後日発表!)

女性の健康に関わる制度のスキマを埋めて、包括的に支える体制を構築する

- ④ 国立成育医療研究センターとの包括連携協定
- ⑤ 女性の健康に関する連携支援体制の構築

【具体的な取組】

OWomanWill 企業ネットワーク

- ・協働企業群でのノウハウ交換・実践・シェアを通じて、「男性中心の働き方・企業文化」の変革を目指します。
- ・若者/女性にとって「働きやすい」「働きがいのある」企業となるためのアクションを設定・実行します。

OWoman's リアル VOICE テラス

- ・女性が気軽に集い、安心して声を上げられる「居場所」を地域に広げます。
- ・リラックスできるサードプレイスが、「つながりの入り口」となります。

○国立成育医療研究センターとの包括連携協定 ※詳細は別紙参照

○女性の健康に関する連携支援体制の構築

- ・女性の健康課題を横断的・包括的に捉え、ライフステージを通じた「一人の女性のカルテ」として地域全体で支援する体制を構築します。

【プロジェクト・アドバイザーとして 村木 厚子さんが就任】



1978年：労働省(現厚生労働省)入省。
障害者政策や女性政策に携わる。
2008年：雇用均等・児童家庭局長。
2013年：厚生労働事務次官を歴任し、2015年退官。
現在、全国社会福祉協議会会長、
大阪大学ダイバーシティ&インクルージョン
センター招聘教授などを兼務。

北九州市と国立成育医療研究センターが 包括連携協定を締結！

北九州市では、「女性にコンフォートなまちづくり」を推進しており、その一環として、令和7年度、「Woman's リアル VOICE プロジェクト」を実施し、女性の暮らしや健康に関するリアルな声を丁寧に収集しました。

その中で、特に多く寄せられたのが女性の健康課題に関する声です。

(具体的な声) いきなり婦人科を受診するには心理的ハードルが高い

どの診療科を受診すればよいかわからない

明確な理由がわからない体調不良は「気のせい」と捉えてしまう

そこで、地域の医療機関、薬局、企業、学校、関係団体が連携し、市全体で女性の健康を支える第一歩として、このたび、国立研究開発法人 国立成育医療研究センターと、女性の健康課題の解決に向けた包括連携協定を締結しました。

国立成育医療研究センターが、女性の健康総合センター設立後に、女性の健康に関する包括連携協定を自治体と締結するのは、初めての試みとなります。

同センターの知見を活用しながら、女性の健康を支える環境整備及び女性が生涯にわたり健康で活躍できる社会の実現を目指してまいります。

連携事項

- 1 女性の各ライフステージに特有の健康課題に関する啓発・教育、企業・団体及び関係機関、地域における理解促進の取組
- 2 働く女性の健康支援のための環境整備
- 3 女性の健康支援の取組、研究、人材育成等の取組の全国展開に資するモデル的取組
- 4 データ分析に基づく政策形成支援

<有効期間> 令和8年4月23日から令和9年3月31日(以降、1年度ごとに延長)

<国立研究開発法人 国立成育医療研究センター>

所在地:東京都世田谷区大蔵 2-10-1

理事長:五十嵐 隆

<女性の健康総合センター(Integrated Center for Women's Health)>

国立成育医療研究センター内に、2024年10月設置

センター長:小宮 ひろみ